

玄 関

フォト劇場 (22)

写真が生まれるものがたり

入船の靴ばかり、わが玄関の火ともしころを出船に直す
風間博夫

写真の靴やスリッパ。出船、入船に置かれて美しい。我が家の玄関は乱雑。夕方、出船に靴を揃えるのが務め。地震の時、すぐに靴が履けるようにしておくためだ。家族の安全を考えての行為である。

玄関の見慣れぬ靴に「ただいま」より先に子ら問ふ「だれが来てるのっ」
新保弥代枝

「僕の母さんは自分の靴は子供用売場で買うんだ。23センチが丁度いいって。この間、学校から帰ったら玄関にピンクのズック靴があった、僕も兄ちゃんもびっくり。女の子が来ると思ってたんだ。」(30年前の話です)



林住期あゆみあゆみてどのあたりわが玄関の秋のしづけさ
金子智佐代

二つのスリッパ、スニーカー、写真の玄関が我が家と重なる。林住期は古代インドの人生区分四住期の三つ目で、子育てや務めが一段落する時期。さりとて人生がやすやすと深まるわけもなく、時は静かに流れてゆく。

去るひとの重たげな背を玄関の眼^{レンズ}が見送り冬のちかづく
竹内みどり

滅多に人が訪れることのないわが家の玄関。少し前、セールスに来た青年と話し込んだことがある。心に抱える不安が窺えた。帰る時「また来ていいですか」と問われ電話番号を交換したが、その後その人を見ない。